

2. 検討の流れ

経過・新たなバス交通の必要性を共通認識

- これまでの検討経過、協議会の概要、分科会で検討を行う上での枠組み、スケジュール等について説明するとともに、Mバスと路線バスとの連携や一体化により、Mバスから新たなバス交通に転換する必要性を説明し、テーマ・コンセプトの検討に向けて、共通認識を形成する。（参考資料 P 13 ~ 参照）

テーマ・コンセプトの検討

- 5班にわかれ、日常生活等で円滑な市内移動をするために、新たなバス交通のテーマ・コンセプトについて議論し、各班ごとに発表する。
- 各班の共通するキーワード等からテーマ・コンセプトを決定する。（参考資料 P 41 参照）

バス交通の課題を抽出

- 現地調査としてMバスを乗車した後、市内移動のためのバス交通に関する問題点や今後の課題を抽出する。（参考資料 P 57 参照）

市民ニーズ等の把握

- 上位計画、地域の高齢者数、地形の課題及びバスサービスの地域格差について確認する。（参考資料 P 43 ~ 参照）
- 6月に実施したバス乗降（OD）調査及び自治会意向調査の結果を確認する。（参考資料 P 45 ~ 参照）

生活ゾーン及び目的地の検討

- 各種調査結果等により、市内のゾーニングを確認するとともに、各エリアから目的地を検討する。（参考資料 P 59 ~ 参照）
各エリアからの主要な目的地は、自治会意向調査結果等に基づき、「箕面駅」、「市役所」、「市立病院」、「かやの中央」の4箇所となる。また、4箇所は「乗り継ぎ拠点」にもなる。

運行内容とルート検討

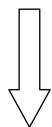
- 5班にわかれ、ゾーニングと目的地の検討から、運行日、運行時間帯、便数から1便あたりの走行距離を仮算出する。（参考資料 P 65 参照）
- 1便あたりの走行距離をもとに、各エリアのルートを紐とまち針を使って地図上にルートを検討し、各班ごとに発表する。

関係機関との協議

- 各班で検討したルートについて、運行上の課題等を道路管理者、交通管理者、交通事業者に意見照会し、意見を聴取する。

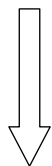
検討ルートの課題を抽出

- 現地調査として、各班で検討したルートのうち、新規検討ルートを中心に走行環境の確認、



運行ルートの妥当性、道路管理者や警察からの指摘事項を踏まえた物理的な課題（狭小幅員ルート、松寿荘内での方向転回等）を確認する。

検討ルート案の確認



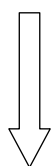
- 各班で検討したルート（検討ルート（直通）案）を確認する。（参考資料 P 70～参照）
- 検討ルートの現地調査結果及び道路管理者や警察等との協議結果の概要説明（参考資料 P 78 参照）

検討ルート（直通）案と代替案（乗り継ぎ案）と比較検討



- 検討ルート（直通）案は、各地域から希望の行き先4箇所（箕面駅、市役所、市立病院、かやの中央）に直通する案で、1時間あたり1便となる。
一方、4箇所の行き先にルートが集まり、運行本数が多くなるので、効率化のため、4箇所のうち1箇所と各地域を結び、4箇所の行き先の間を乗り換え用のバスを運行する案を考え、乗り継ぎ案とし、直通案と比較検討した。（参考資料 P 76～参照）
- 検討結果として、「主要な行き先は直通が良い」、「乗り継ぎ場所で待つ時間を考えると、運行便数が少なくても自宅で待つ方が良い」などの直通案を支持する意見が多くあったことから、分科会では、直通案について検討を進めることにする。

検討ルート（直通）案の詳細検討



- 4班にわかれ、検討ルート（直通）案のうち、各班の相違している一部ルートの選択や見直しなど、詳細を検討し、各班ごとに発表後、運行ルートを決定する。
- 決定した運行ルートにおけるバス停位置や巡回方向など確認し、各班ごとに発表する。

分科会案のとりまとめ

- 検討ルート（直通）案の詳細検討した結果を分科会案として、協議会に報告するが、今までの検討経過で出された意見（課題）についても協議会に報告する。

乗り継ぎ案の対応

- 少数意見の乗り継ぎ案については、この案を支持した8名の委員で詳細検討をするが、8月7日の分科会では時間が足りなかったため、8月18日（火）に延長戦として、再度、詳細検討した結果、乗り継ぎ抵抗が大きいことなどから、テーマ・コンセプトの「使いたくなるバス」としては、直通案が良いとの結論になる。
- ただし、実証運行によるルート見直しの選択肢としては、乗り継ぎ案は必要であることや直通案で実証運行する際には殆どのルートが重複している路線バスの山麓線を市東部と箕面駅を往復するルートに見直し、便数の充実を図ることが必要であることを確認した。